



ルーテル 藤が丘だより

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会

〒 227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 牧師 佐藤和宏

tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009

URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp

発行 月報編集委員会 発行日 2018年10月7日 No. 53



礼拝献花より

主の前にへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高めてくださいます。

ヤコブの手紙 4章10節



シリーズ説教

『神への近道』

牧師 佐藤和宏

マルコ9章30節～37節

カファルナウムに到着すると、イエスが弟子たちに尋ねました。「途中で何を議論していたのか」と。弟子たちはそれに答えることができませんでした。「だれがいちばん偉いか」と議論し合っていたからである、と聖書は沈黙する彼らに代わって、その理由を明らかにしています。彼らは議論の内容を問われて、恥じ入ったのかもしれませんが、「だれがいちばん偉いか」という議論は、おそらく弟子たちの間で自分は何をやったとか、自分はどれだけ頑張ったとか、あるいは自分はどれだけイエスに近いか、そのような人間的な内容に終始していたことでしょう。それをイエスに見抜かれたかのように感じ、彼らはだれもがそれぞれの口を閉ざしたのです。

「偉い」と訳されている言葉は、大きいという意味を持つのです。このことから私たちは、少しでも大きく、

より良く認められたいと考える自分の心に行き当たるのではないでしょう。同じように、弟子たちのナビゲーションシステムは、偉くなることを、大きく、多く、役に立ち、評価される、そのような方向へと導きます。それが人生の成功へと導く近道であるかのように。そして、そのような人間の思いを触発したのは、イエスの受難予告であったのです。イエスが指し示す方向と、弟子たちが期待する方向とは真逆に見えます。そして、「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい」と教えられるのです。神への近道は、自ら偉くなり、大きくなり、人から賞賛を受け、誰かに仕えられることではないのです。それはすべての人の後になり、すべての人に仕えることによつて開かれる神への道なのです。そしてこの主イエスこそ、その道を、私たち人間の目には神への近道とは思われない道をひたすら歩まれ、その究極として十字架の死を遂げられたのです。

「神に近づきなさい。そうすれば、神は近づいてくださいます。」ある人

たちは、神が与えられた律法を守ることによつて、神に近づくことができると考えました。しかし、律法を守ろうとする一方で、律法を守れない人々がその視野に入つて来て、どうしても気になって仕方がありません。そこで彼らは、「どうして律法に従わないのか」と、律法を守れない人々を批判し、やがて罪人として扱うようになっていきました。律法を守ることで、神に近づけると思っていた彼らですが、律法を守れない自分たちを区別し、批判することで、かえつて神の御心から遠ざかってしまったのです。

このような人々の姿は、「だれがいちばん偉いか」と議論する弟子たちに似ています。「神に近づく」ことを願つて、律法の前に立っていたはずの人々でしたが、彼らの目に律法を守れない人々という別の比較対象が生じたのです。そして、「だれがいちばん偉いか」「大きいか」「役に立つか」「価値があるか」と、相手と自分たちとを比べるに至つたのです。そして、相手を律法を守らないことを理由に「偉くない」「小さい」「役に立たない」「価値がない」、罪人と見

なすようになってしまったのです。つまり、だれかを低くおとしめることで自分を高めることに、彼らは成功したつもりでした。しかし、自分を高めようとした結果、神に近づくどころか、神から離れ、かえつて神に敵対する者とされていったのです。つまり「神に近づく」とは、人の努力や能力によるのではなく、人の熱心さによるのです。人々の評価によるのではないのです。そうではなく、「神に近づく」すべを知らない自分と出会うとき、驚くべきことに「神が近づいてきてくださる」ことを知るのです。神が近づいてくださる、これこそ私たちにとって唯一神への道なのです。この驚くべき神の恵みは、神の子イエスが人となつて私たちの間に来てくださったことによつて実現しました。この主イエスによつて、私たちが神に近づくのではなく、神が私たちに近づき、私たちの良き隣人となつてくださったのです。

キリストの十字架によつて罪赦されたという驚くべき事実には打ちのめされ、神のものとして私たちは、新たに生き始めることができるのです。
(聖書降臨後第19主日)

シルック坂根先生の講演を聞いて

○田由○子

世界でも最も高い教育水準、高レベルの福祉に見られる成熟した社会、自立した人々。

シルック先生の講演は私自身のフィランドに対するイメージを裏付けするものであった。



■講演するシルック坂根氏

フィンランドで最も重要とされる要素は個々人の人生を豊かにするための「個人の自立」である。これはフィンランド社会のあらゆる側面に見られる。

税金が高いということは公的機関が何をしてくれるのかというよりは、個人が国に貢献する意識が高いということ。

家庭内においても、親はこうあるべき、子供はこうあるべき、という枠にとらわれることなく子供が自立した一つの個性として扱われるという。これは子供の頃から自立した個性を培うよう促されるということ。

会話をする時、フィンランド人は相づちをあまりうたないのだという。これは裏を返せばしっかりと内容のある話をしなければならぬということ。

仕事でも、女性に門戸が開かれていて日本のような年功

序列や新卒主義はなく、中途採用のみで実力により評価されるという。これは一見理想的に見えるが、それは同時に、仮に自分が認められなければ、それは自分の責任以外の何物でもないということ。

個性の確立よりも全体の調和が優先される社会で居心地よく生きてきた日本人がフィンランドで暮らすとしたら、かなりタフに感じる局面が多々あるに違いない。

フィンランドは理想的な社会の一つの例かもしれない。しかし、本当にそこで生きていくとしたら、私は少なくとも近視眼的には幸せになれる自信はない。

しかしながら、翻って日本社会を客観的にみてみると急速に高齢化が進む厳しい現実と直面している。高齢化の先にあるものは人生の終末。誰もが避けられない「死」。「死」は究極に個人のもの。極端な例で、例えば心中したとしても魂のレベルでは一緒に死を迎えることはできない。

それを念頭に考えると、人生の終末を平安に迎えるためには各個人の精神的自立が肝要となってくることに気づく。

シルック先生が指摘されていたように日本とフィンランドでは大きな違いがあるけれども、どちらが良いというものではない。しかし、各個人の避けることのできない人生の終末を考えたとき、社会のあらゆる側面が個人の自立を促す構造になっているフィンランド社会から日本人が学ぶことは多いのではないだろうか。

■女性会だより

日時：9月17日 礼拝後

参加者：18名

聖書の学び：ローマの信徒への手紙

15章13節 「希望の源である神」

神様のみ心に私たちの希望を寄せ
てゆく

その他：城南神奈川地区女性の集い
(9月1日) およびサバの神学校訪問
報告、一日神学校ミニショップにつ
いて、バザーについて

お仕事会(9月12日)参加者 13名

■講演会のご案内



伊藤悟先生

2018年、藤が丘教会では東教区より支援を受けて四回の講演会を計画しています。名付けて「FUJIGAOKA de CULTURE LIFE(藤が丘でカルチャー・ライフ)」。今回は、10月28日(日)の午後12時半から午後2時まで行われる四回目の伊藤悟先生の「聖書が示す人生の知恵」という講演会のご案内をします。

伊藤悟先生は現在、青山学院大学教育人間科学部の教授で、専門はキリスト教教育、組織神学、実践神学です。青山学院大学経済学部を卒業後、ウェスタン神学大学院、東京神学大学院を修了されました。日本基督教団の牧師でもあります。研究熱心な先生で、キリスト教に関する著書は多数あります。日本

キリスト教教育学会常務理事、日本基督教学会幹事、チャイルドファン・ド・ジャパンの理事もされています。青山学院大学ではキリスト教概論、キリスト教学校論を教えておられ、「聖書に親しむ会」も担当されています。キリスト教を分かりやすく教えておられる先生で、学生たちと精力的に活動する人気の先生でもあります。

■受洗おめでとうございます。

9月30日(日)礼拝にて、吉〇〇沙さん、〇くん、〇くんの洗礼式が執り行われました。吉〇さんご家族が礼拝にいられるようになってから、藤が丘教会の

礼拝にも、子どもたちの声が響くようになり、それは教会を明るくしてくれました。礼拝後も、子どもたちの元気な声は、教会を笑顔で満たしてくれたものです。

今回の洗礼式も、



尚、参加には事前の申し込みが必要となります。講師名・住所・氏名・連絡先を明記して、045・479・7009までファックスして下さい。教会のホームページ <http://www.jelc-fujigaoka.org/> から申し込みができます。教会員の皆さんには、申し込み用の氏名を記入する用紙をホワイト・ボードに掲示しています。

とても印象的な式でした。私は、主イエスが「子どもたちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない(マルコ10章14節)」と言われたのを思い出していました。ご家族のために、お祈りください。

■教会の動向



9月の教会は、2日(日)礼拝後に、定例役員会が開かれました。5日は聖研、7日には洗礼後の学びがありました。

9日(日)礼拝に引き続いて、坂根シルックさんの講演会がありました。12日はお仕事会。

16日(日)には敬老の感謝のプレゼントを75歳以上の皆さんにお贈りしました。礼拝後、ホームカミングデー、クリスマスコンサート委員会がそれぞれ開かれました。17日(月)は、藤が丘教会を会場に、アネモス群合同修養会が開かれました。18日は子育てわいわいワークショップ、19日は聖研、21日は洗礼後の学びでした。

23日(日)は、礼拝後にバザー委員会がありました。24日(月)は一日神学校に出かけました。

30日(日)は、礼拝にて洗礼式(上記)が執り行われました。また礼拝後、ホームカミングデー案内の発送作業をみんなで行いました。また、月報編集委員会がありました。